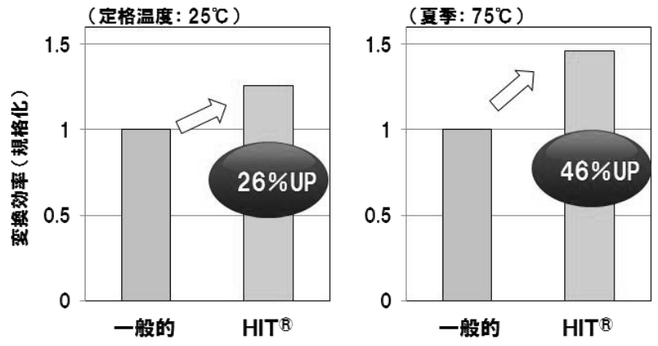
パナソニックエコソリューションズ

夏場高温時の 発電効率低下を約半減

シリコン系太陽電池モジュール出力温度係数

世界最高水準を達成 −0.258%／℃



一般的なシリコン系太陽電池の変換効率を15・6%、出力温度係数をマイナス0・50%／℃、HITの変換効率を19・6%、出力温度係数をマイナス0・258%／℃で計算

世界各国の顧客にパナソニックグループの環境・エネルギー関連製品を届ける以外に、エンジニアリング・サービスも含めたさまざまなソリューションを提供するパナソニック㈱エコソリューションズ社（本社：大阪府門真市大字門真1048番地、代表取締役社長：北野亮氏）は、シリコン系太陽電池モジュールの出力温度係数において、量産レベルとして世界最高水準（注1）となる−0.258%/℃（注2）を達成した。

これまでの同社の出力温度係数は−0.29%/℃だった。このほど量産レベルで0.032ポイント上回る−0.258%/℃（注2）への技術向上を達成し、ヘテロ接合型太陽電池の温度特性の良さがあらためて実証された。

太陽電池（セル）を実装するモジュールは、温度が上昇すると変換効率が低下するため、出力が低下する。

その低下度合いを表した指標が出力温度係数である。

一般的なシリコン系太陽電池の出力温度係数は−0.50%（注3）だが、これはモジュール温度が1℃上昇することで変換効率が0.50%低下することを意味している。

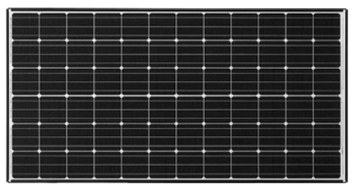
例えば夏季に想定されるモジュール温度（75℃）では、変換効率が25℃時より25%低下することになるが、出力温度係数を改善した同社モジュールは、変換効率の低下を約半分に抑える。

HITの特長の一つである変換効率（定格）と、この温度特性を合わせることで、75℃時の変換効率は一般的なシリコン系に比べて46%（注4）向上するため、太陽電池が弱いとされる夏場でもしっかり発電する。

今回の成果はHITの最大の特長である独自のヘテロ接合技術（注5）の改善をさらに進化させたことで実現したものであり、関連技術は商品に導入している。

同社は今後も、さらなる高出力発電、高効率化、高信頼性化を目指した技術開発および量産化に取り組んでいく。

（※）「HIT」は、パナソニックグループの登録商標。



ＨＩＴモジュールの写真

（注1）非集光型シリコン系太陽電池モジュールにおいて。2017年5月18日現在同社調べ。

（注2）第三者測定機関が測定値（IEC 61853−1準拠）から算出した平均値。

（注3）太陽光発電協会表示ガイドライン（平成28年度）より「参考値：（1）結晶系シリコン太陽電池」を引用。

（注4）一般的なシリコン系太陽電池の変換効率を15.6%（出力温度係数−0.50%/℃）、HITの変換効率を19.6%（出力温度係数−0.258%/℃）で計算。

（注5）結晶シリコン基板表面をアモルファスシリコン膜で覆うことで、太陽電池に必要な接合形成を行う技術。

シリコン基板表面付近に多数存在する欠陥を補償するパッシベーション性能が優れていることが特長である。

【問い合わせ】

エコソリューションズ社エナジーシステム事業部ソーラーシステムビジネスユニット開発管理部、☎072−438−9644（代表）

次代を拓く最新技術

SCREEN GA

4K・8K放送に対応

ヒラギノＴＶゴシック６書体

㈱SCREENグラフィックソリューションズ（本社：京都市上京区堀川通寺之内上る４丁目天神北町1番地の1、代表取締役社長執行役員：馬場恒夫氏、以下・SCREEN GA）はこのほど「一般社団法人 電波産業会」が策定するARIB STD−B62規格に対応した4K・8K放送対応のヒラギノTVゴシック6書体を開発した。

2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向け、2018年12月にはBSで4K放送の開始が決まるなど、テレビやケーブルテレビ放送等の受信・変換装置であるSTB（セットトップボックス）などのメーカーにおいては、4K・8K放送の電子番組表や字幕放送に対応したフォントへの要求が高まっている。

こうした業界動向を受け同社は、「一般社団法人電波産業会」が策定したARIB STD−B62規格に対応した「ヒラギノTV丸ゴSW4／W6」「ヒラギノTV角ゴSW4」「ヒラギノTV丸ゴUW4／W6」「ヒラギノTV角ゴUW4」の6書体を開発。今年7月から提供を開始し、4K・8K放送へのニーズにいち早く対応する。

「一般社団法人電波産業会」（Association of Radio Industries and Businesses、略称・ARIB）は、通信・放送分野における新たな電波利用システムの研究開発や技術基準の国際統一化の推進などを目的に設立。携帯電話事業者や放送局、衛星放送事業者、無線機器メーカーなどが加盟する日本の業界団体。

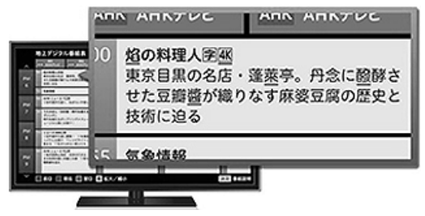
ARIB STD−B62は、4K・8K放送に必要となる文字セットとして規格化。従来規格のARIB STD−B24の文字セット（7568文字）に第3／第4水準の漢字・非漢字、ARIB用外字などの文字を追加し、合計1万1696文字の文字セットを収録している。

SCREEN GAのヒラギノフォントは、その洗練されたデザインと文字品質の高さでプロのデザイナーを中心に高い評価を獲得している。

さらに「自然に、楽に、長く読める」ことを追求して開発されたUD書体は、ユニバーサルデザインにも対応している。

ヒラギノフォントが持つ「美しく、読みやすく、つぶれにくい」という特長により、スマートフォンや電子辞書、デジタル家電、カーナビなどの表示書体として幅広く利用されている。

今回のARIB STD−B62規格対応フォントである「ヒラギノTVゴシック」の開発により、超高精細なディスプレーにふさわしい高品位な画面表示が可能となり、製品の付加価値を高め、他社との差別化を図ることができる。



＜ヒラギノＴＶゴシック書体見本＞

ヒラギノTV丸ゴUW4
永遠の美を追求 4K 8K Hi-Res 7.1

ヒラギノTV丸ゴUW6
永遠の美を追求 4K 8K Hi-Res 7.1

ヒラギノTV角ゴUW4
永遠の美を追求 4K 8K Hi-Res 7.1

ヒラギノTV丸ゴSW4
永遠の美を追求 4K 8K Hi-Res 7.1

ヒラギノTV丸ゴSW6
永遠の美を追求 4K 8K Hi-Res 7.1

ヒラギノTV角ゴSW4
永遠の美を追求 4K 8K Hi-Res 7.1

SCREEN GAは、本製品を2017年5月10日㈬から12日㈮まで東京・有明の東京ビッグサイトで開催された「第20回組込みシステム開発技術展（ESEC）」に出展した。今後も高品質な書体作りを通じて、時代の変化やメディアの多様化に応え、幅広い企業ユースのニーズに対応していく。

（※）ヒラギノは、㈱SCREENホールディングスの登録商標。

【問い合わせ】

㈱SCREENグラフィックソリューションズ ヒラギノホットライン、☎075−417−2568、URL：https://www.screen.co.jp/screen-hiragino/inquiry/index.php

新会社設立、ディスプレー製造後半工程事業譲り受け

SCREENホールディングス

成長期待分野に

新たな相乗効果を創出

㈱SCREENホールディングス（本社：京都市上京区堀川通寺之内上る4丁目天神北町1番地の1、代表取締役社長・最高経営責任者〈CEO〉：垣内永次力氏）は、5月25日の取締役会において、同社の主要事業会社の一つとしてFPD製造装置などの製造・販売を担う㈱SCREENファインテックソリューションズ（以下・カバーガラス貼り合わせ装置など、ディスプレー製造の後半工程で高い評価を得ているFUK社と2016年春に業務提携に向けて幅広い装置SCREEN FT）系列の子会社を設立し、当該子会社が㈱FUK（本社：奈良県御所市、社長：植村光生氏）の全事業を譲り受けるための契約を締結することを決定し、同日付でFUK社とSCREEN FTグループとして、さらなる事業の発展・拡大に取り組んでいく。

【設立する子会社の概要】

名称＝㈱SCREENラミナテック
所在地＝奈良県御所市室1186−12
代表者＝山田拓真氏
事業内容＝フレキシブルデバイス製造装置、タッチパネル製造装置、液晶パネル製造装置、機能性フィルム製造装置などのインテグレーションを含む全事業を譲り受けることに合意し同契約を締結した。

【事業譲り受けの理由】

ディスプレー製造装置市場において、塗布・現像装置のトップシェアをがSCREEN FT系列の子会社を設立し、当該子会社がFUK社からフレキシブルデバイス製造装置などのインテグレーションを含む全事業を譲り受けることに合意し同契約を締結した。

今後は、成長が期待されるフレキシブルディスプレー市場の多様なニーズに対応する新しいソリューションの提案実現に向けて、当該子会社の営業を7月3日（予定）に開始し、SCREEN FTグループとして、さらなる事業の発展・拡大に取り組んでいく。

【譲渡価額および決済方法】

当事者間の合意により非公開とする。

【今後の見通し】

本件による2018年3月期の連結業績に与える影響は軽微。今後の取り組みの状況によって公表すべき事項が生じた場合は、速やかに報告するとしている。

進めてきたが、両社のコアコンピタンスをより強く融合し、新たな相乗効果を創出するため、同社の設立、当該子会社がFUK社からの1、代表取締役社長・最高経営責任者〈CEO〉：垣内永次力氏）は、5月25日の取締役会において、同社の主要事業会社の一つとしてFPD製造装置などの製造・販売を担う㈱SCREENファインテックソリューションズ（以下・SCREEN FT）系列の子会社を設立し、当該子会社が㈱FUK（本社：奈良県御所市、社長：植村光生氏）の全事業を譲り受けるための契約を締結することを決定し、同日付でFUK社とSCREEN FTグループとして、さらなる事業の発展・拡大に取り組んでいく。

【設立する子会社の概要】

名称＝㈱SCREENラミナテック
所在地＝奈良県御所市室1186−12
代表者＝山田拓真氏
事業内容＝フレキシブルデバイス製造装置、タッチパネル製造装置、液晶パネル製造装置、機能性フィルム製造装置などのインテグレーションを含む全事業を譲り受けることに合意し同契約を締結した。

【事業譲り受けの理由】

ディスプレー製造装置市場において、塗布・現像装置のトップシェアをがSCREEN FT系列の子会社を設立し、当該子会社がFUK社からフレキシブルデバイス製造装置などのインテグレーションを含む全事業を譲り受けることに合意し同契約を締結した。

今後は、成長が期待されるフレキシブルディスプレー市場の多様なニーズに対応する新しいソリューションの提案実現に向けて、当該子会社の営業を7月3日（予定）に開始し、SCREEN FTグループとして、さらなる事業の発展・拡大に取り組んでいく。

【譲渡価額および決済方法】

当事者間の合意により非公開とする。

【今後の見通し】

本件による2018年3月期の連結業績に与える影響は軽微。今後の取り組みの状況によって公表すべき事項が生じた場合は、速やかに報告するとしている。

日本ＨＰ

災害時に最適の高機能

ＭＩＬ規格準拠 大判Ａ０サイズ プリンター

㈱日本HP（本社：東京都江東区、代表取締役社長執行役員：岡隆史氏）は、MIL規格準拠の大判プリンター「HP DesignJet T830 MFP アーマーケースセット」を発表した。

米軍調達基準「MIL−STD 810G」対応の高い耐久性を有するケースに収納されたA0サイズの複合機で、さまざまな現場に移動させることができ、災害時や過酷な環境下においても地図や図面などのプリントやスキャン機能を提供する。新製品は日本HP販売代理店で、6月下旬より販売を開始する。

製品名＝HP DesignJet T830 MFP アーマーケースセット
希望小売価格（税抜）＝80万円
販売開始日＝6月下旬

【過酷な環境下で活用できる高耐久性アーマーケースセット】

「HP DesignJet T830 MFP アーマーケースセット」は、粉塵や頻繁な搬送、衝撃などの過酷な環境下での利用を想定し開発された高耐久の収納ケースを備えるA0サイズ対応の大判複合機。

914㍉幅（A0サイズ）の内蔵スキャナーを搭載し、災害時や建築現場などの環境下でモバイル端末を使って図面の修正やスキャン、ファイルの共有ができる。

また本体に搭載された直感的なタッチスクリーン上で、正確なプリントプレビューが可能になっている。

【HP DesignJet T830 MFP アーマーケースセットの特長】

▶A1サイズ最速25秒の高速プリントで高い生産性を実現。カット紙トレイを標準搭載し、ロール紙の他にA3、A4の用紙を最大50枚セット可能。

▶顧客の利用状況に合わせた最適なインクカートリッジのサイズを40〜300mlの間で選択できる。

これにより、インクの購入コストやランニングコストの削減が可能になる。カートリッジのサイズはカラー40／130／300ml、ブラック69／300mlを用意している。

▶アーマーケースのサイズは、W1690×H620×D550㍉で、重量は約120㌔。

▶大画面タッチスクリーンを搭載し、スマートフォンのような直感的な操作性を実現する。

HP DesignJet T830 MFP アーマーケースセット

人事異動

＜４面からつづく＞

★読売新聞グループ本社
5月1日付
知的財産部専任次長兼東京本社データベース部次長）関川英樹

★読売新聞東京本社
5月1日付
スポーツ事業部長兼務 取締役事業局長：石井一夫

販売局総務（総務局総務兼販売局総務）神越惠介▽総務担当職 大阪本社出向・局次長相当職：市川宗雄▽西部本社出向・総務担当職（販売局総務）矢ヶ崎貢▽教育ネットワーク事務局長兼読売新聞グループ本社出向・局次長相当職＝社長室次長（読売新聞グループ本社出向・部長相当職＝社長室幹事）貞弘貴志▽総務局次長（販売局次長）竹内数也▽販売局次長兼開発部長（販売第3部長）佐藤渉▽販売第1部長兼務を解く 販売局次長：岩上秀憲▽管理部連絡システム課長兼務を解く 販売局次長兼管理部長兼国際版販売課長兼読者センター：村越輝章▽読売ＩＳ出向・局次長相当職（販売局次長兼開発部長）中島健▽ＮＰＢエンタープライズ出向・局次長相当職（スポーツ事業部長）山田隆▽教育ネットワーク事務局専門委員兼医療ネットワーク事務局（教育ネットワーク事務局長）早乙女大▽業務改善委員会委員・部長職（販売第7部長）大森信之▽編成センター総務課長兼務を解く 編成部長：田中浩司▽販売第1部長（販売第6部長）中嶋浩一▽販売第3部長（販売第5部長）井上雄貴▽販売第5部長（西部本社出向・部長相当職）平沢和也▽販売第6部長（北海道支社販売部長）大橋雅彦▽販売第7部長（販売第5部次長兼ブランド企画部）田所秀人▽監査課長兼務 販売監査部長：稲葉博章▽北海道支社販売部長（販売第3部次長兼ブランド企画部）山田雅彦▽西部本社出向・部長相当職（販売第6部次長）西正美

不動産センター次長（読売ＩＳ出向・部次長相当職）橋部典幸▽編成センター総務課長兼務編成部へニュース次長：岩井貴▽武蔵野支局長兼務を解く 社会部次長兼都内版編集室長：山浦義弘▽社会部武蔵野支局長（社会部主任）水野哲也▽英字新聞次長（英字新聞部国際配信課長）新居益▽英字新聞部国際配信課長（英字新聞部主任）柳沢亨之▽広告第6部次長（広告第5部次長）駄場繁▽販売第2部課長（販売第7部主任）森大輔▽販売第3部次長兼ブランド企画部（中部支社販売部次長兼販売管理課長）畑圭典▽販売第3部主任）菅野勝▽販売第4部課長（販売第5部主任）小嶋美智男▽販売第5部次長兼ブランド企画部（販売第7部次長）伊藤集一▽販売第6部次長兼北陸販売課長）大沢敏志▽販売第7部次長（北海道支社販売部次長）斉藤浩司▽販売第8部次長（大阪本社出向・課長相当職）小野寺剛▽販売第8部次長兼北陸販売課長（販売第3部課長）大滝雄二▽販売監査部課長（販売監査部計算課主任）照井宏行▽開発部専任次長兼開発課（読売不動産出向・専任次長）相沢博明▽労政部次長兼店力強化課長（労政部店力強化課長）一柳裕子▽販売局管理部連絡システム課長（販売第2部課長）伊丹寛▽工程部（工程センター）専任次長（開発部専任次長兼開発課）関谷寛之▽北海道支社販売部次長（販売第8部次長）小野寺享▽中部支社販売部次長兼販売管理課長（販売第4部課長）小黒克彦▽大阪本社出向・課長相当職（販売第1部次長）山下修、（広告第6部次長）松下道子▽読売情報開発出向・課長相当職（販売第6部主任）住吉知也▽読売不動産出向・部次長相当職（不動産センター次長）加藤敦之▽専任部長 西部本社出向・部長相当職：宮川功、読売理工学院出向・部長相当職：石井孝雄▽販売監査部監査課専任課長（販売監査部監査課長）雨宮貴人

〈定年退職（4月30日）〉
メディア局編集部専任次長：浅見恭弘、読売情報開発出向・専任課長：細沼孝司

★読売新聞大阪本社
5月1日付
販売局総務（販売局次長）市川宗雄▽販売局次長兼販売第1部長（販売第2部長）三上利行▽販売第2部長兼務を解く 販売局次長：望月知久▽販売第2部長（販売第1部次長兼読者センター）吉田英輝▽販売第4部長（販売開発部長）石井晶英▽読売企画開発出向・部長相当職（販売第4部長）多田幸人▽論説・調査研究室論説委員兼編集局編集委員（東京本社出向・論説委員）正岡明

配信部専任次長（大阪読売サービス出向・専任次長）柳川慎一▽販売第1部次長兼読者センター（販売第3部近畿販売課長）青山誠▽編集局長（編集局編集総務）小川敏正▽編集局編集総務（編集局整理部長）柴田敦▽編集局報道部担当部長（編集局学芸部長）大高茂樹▽編集局編集局整理部参与（編集局整理部長）仁平克幸▽編集局学芸部参与・テイスト編集長兼大阪担当支社長（水戸支社長兼笠間支局長）藤枝智昭▽水戸支社長兼笠間支局長（日立支社長兼編集部長兼常陸大宮支局長兼大子支局長）二方善郎▽水戸市者編集部長（編集局整理部次長）清水英彦▽水戸支社営業部長（水戸支社営業部）高橋栄次▽日立支社長兼営業部長兼常陸太田支局長

★京都新聞社
5月1日付
論説委員長（編集局長）布部拓男▽編集局長（論説委員長）山内康敏▽編集局報道部地域担当部長（編集局丹波総局長）兼論説委員（論説委員長）森貴賢広

滋賀本社代表（東京支社長）藤田治久▽滋賀本社編集局編集部長代理（編集局ニュース編集部長代理）岩本敏朗▽滋賀本社滋賀北部総局長浜支局長心得（南部支社京田辺・学研総局）山本秀二▽東京支社長（編集局報道部地域担当部長兼論説委員）下尾芳樹

☆京都新聞ＣＯＭ
5月1日付
参与 販売局長：松尾進▽営業局営業部広告委員（営業局営業部デザイン担当部長）辻田和樹▽経理部長兼務を解く 総合管理局長兼労務担当代行：岩永洋一郎▽総合管理局経理部長（総合管理局経理部長代理）岡本健▽総合管理局管理部長（総合管理局管理部管理担当部長）片平健次

☆京都新聞印刷
5月1日付
印刷局長（印刷局次長）増田聡▽印刷局印刷部長代理（印刷局印刷部次長）谷光博▽印刷局技術委員（印刷局長）武田誠

★神戸新聞社
5月1日付
東京支社長（論説副委員長）村上小百合▽神戸新聞文化財団出向・専務理事（東京支社長）沖永朝裕（カッコ内旧職・敬称略）